

# 大障教ニュース

大阪府立障害児  
学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7 11  
府教育会館704号  
(TEL)6765-8904  
(FAX)6765-8905

## 子どもがもっと好きになる連続学習会

# 信頼する大人がそばにいることが大切 先生の専門性はかかわり続けること！



講師の三木裕和さん

3月4日、子どもがもっと好きになる連続学習会が行われ、府立支援学校の教職員68人が参加しました。三木先生と学ぼう！子どものこと、授業のこと、目標・評価のことというテーマで、鳥取大学教授の三木裕和さんが講演しました。

最初に三木さんは、思春期・青年期の子育てを、知的障害・発達障害教育と関連づけて話し、ほめることは大切だが、ほめることを手段にしないかと問題提起しました。「傷ついてきた子どもたちの中には、ほめられてきた子どもがいる。しかし、彼らが望んでいるのは、自分が成長しているという手ごたえで、そのために、とりくむべき価値や目標を見つけていくことが大切」と指摘しました。さらに、「彼らがなかなか課題に向き合えないのは、自信がないから。失敗することを恐れているから」と、子どもの内面の思いについても述べました。次に三木さんは、今、職場で孤立して苦しんでいる教員のことを話題にしました。ある教員は、食へのこだわりが強い、重度の自閉症の子どもの実態に合わせて指導をしていました。しかし自分が不在の時に他の教員が厳しく指導した結果、その子は食べなくなった給食を一時的に食べるようになりまし。そのことで、自身の指導について悩んでいるという事例でした。三木さんは、後にその子が嘔吐してでも出されたものは食べずにはいられない大人になってしまったことを紹介しました。



会場いっぱい参加者

その上で、「結果さえよければ何をしてもいいのではない。子どもの世界が広がっていくプロセスが何よりも大事」と強い口調で語りました。また、「信頼してくれる大人がそばにいると、子どもはなんとか頑張れる。そういう人がそばにいないと、子どもたちは生きていけない」と述べました。後半三木さんは、新学習指導要領について、今の教育政策は中央教育審議会からのスタートではなく、安倍首相の私的な諮問機関「教育再生実行会議」が政策を作り、中教審は反対することなく、すぐに国会に提出して法律ができるという流れになっていること、学習指導要領もそうであることが問題だと指摘しました。三木さんは、今回の学習指導要領改訂は、障害のある人など、弱さをかかえた子どもは、一切考えずに作ったものだとして強く批判しました。そして、私たちは常に子どもたちの方を見ながら、おかしいと思ったことは、おかしいと声をあげることが重要だと訴えました。最後に三木さんは、「自身の生き方と重ね、教職員組合に入って、多くのことを学んだことを語り、正しい大事なことを言う人がいることが大切。皆さんと仲間になれたらうれしい」と呼びかけ、3時間の講演を終えました。

### 参加者の感想です！

これからの教育がどのように動いていくか、自分自身がどのような実践を行っていくかを考えながら聞きました。初めて聴かせていただき、三木先生の大ファンになりました。職場では上の人にふりまわされているばかりで、自分の意見もちゃんと言えないですが、何年か先には反対したいときは声をあげられる人になりたいと思いました。胸の熱くなるエピソードがたくさん聞けて、また明日から頑張ろうと思いました！高等部にいるので考えさせられることが多かったです。評価より過程の大切さについて大変勉強になりました。

(裏面に続きます！)

大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメール アドレス : fushoukyou\_1@mtb.biglobe.ne.jp



書記局の  
ひりゅう

2006年に施行された障害者自立支援法は、障害者が生きるために必要な福祉・医療サービスを利益とみなして1割の自己負担を課すものでした。2008年、障害が重い人ほど自己負担も重くなる同法は憲法違反と訴え、全国の障害者が団結して国を訴えたのが障害者自立支援法違憲訴訟です。

2010年1月7日当時の民主党政権は、同法廃止と新法制定を約束した基本合意を原告と交わして和解しました。しかし、2012年に自立支援法に代わるものとしてつくられた障害者総合支援法は、原告との約束を守らず、自立支援法の問題点を多数温存するものでした。

その一つに、障害福祉サービスを利用していた障害者が65歳を迎えると直ちに、介護保険の優先利用を求める原則があります。非課税世帯が障害福祉サービスを利用した場合の利用料は無料ですが、介護保険では原則1割の自己負担が発生します。サービス内容も障害福祉サービスに比べると柔軟性に欠け、高齢の障害者の多くは不自由を強いられています。

こうした介護保険優先原則に基づき、65歳になったとたん介護保険申請が無いからと障害福祉サービスをすべて打ち切ったことは違憲違法だと岡山市を相手取り、70歳の脳性まひの男性が訴えていた裁判の判決が、今年の3月14日に岡山地裁で出されました。原告の生活状況や介護保険サービスへの1割負担が経済的に困難であることを認め、岡山市のサービス打ち切りは違法と断じる原告全面勝訴の判決です。

介護保険優先原則で苦しめられている全国の多くの障害者を励ますものとなりました。

# 列車に乗って旅をしたい!

## 第33回「大阪ひまわり号」に参加して

「列車に乗って旅をしたい」という障害者の切実な願いを実現させようと、1982年に多くの困難を乗り越えて専用列車を走らせたのが「ひまわり号運動」の始まりでした。2月18日、今年33回目となる「大阪ひまわり号」に参加してきました。

### 台風による延期開催

第33回のひまわり号は、昨年10月22日に予定していましたが、台風の接近・上陸のためにやむなく中止、改めての日程での実施となりました。

2月18日当日、昨年度と同じ時刻の8時44分、167名を乗せた近鉄電車・あおぞら号は上本町



近鉄電車・あおぞら号

駅を出発して弥富駅に向かいました。今回の目的地は、なばなの里。途中、恒例となっている「走れ!ひまわり号俺たちのシルクロード」の歌声が車内に響き、参加者が車掌さんに扮して行う「切符切り」の企画も好評でした。

また、班ごとにパネルへの張り絵作りのとりくみも楽しく、弥富駅からなばなの里まではバスに乗り換えて移動し、到着後は女子大生アイドルグループの歌とダンスでのお出迎えというサプライズ昼食となりました。昼食には、ビール園でのBBQを美味しくいただきました。



「カオナシ」の仮装が大好評

昨年を引き続き参加した「ひまわり号」でしたが、今回は、勤務している支援学校から何組か

のご家族の参加があり、列車の中もにぎやかでした。ただ、ギターや楽器を持ち込んでの歌声のとりくみでは、古い曲の演奏が中心で、子どもたちなど若い世代とのギャップを感じずに入られませんでしたが、でも帰りの車内での青年当事者の会

今年も「ぼろスクエア」や「青年当事者の会」などの若い人たちが、実行委員会に参加し、当日のボラティアも担っていただいたおかげで、スムーズな運営ができました。

「ひまわり号憲章」には、「『ひまわり号』に集う仲間たちひとりひとりが主人公となり、ロマン、ドラマに満ちた旅を満喫しあおう。す

(障対部・鶴岡敬三)

のメンバーが扮した千と千尋の神隠しに登場する「カオナシ」は子どもたちに大好評でした。

障害者が自由に利用できる交通の整備を

### 三木講座参加者の感想です! (表面の続き)

「ほめる」という内容で、深く考えさせられる点がたくさんありました。先生が関わってこられた子どもたちの話を聞くことで、とても心が温かくなったとともに、早く子どもたちに会いたいと思える内容でした。今、接している子どもたちの顔がポンポンと浮かぶお話でした。自分一人ではないと思って、「これから頑張ろう」と思えました。学生時代に学んだことや、教員になりたいと思った原点を思い出した反面、自身の子どもへのかかわり方は合っているのか、もっと適切なかかわり方があるのではと再認識しました。ほっこり温かい気持ちになりました。自分のことをわかってくれる身近な大人、そんな人間になりたいと思いました。毎年楽しみにしています。今年 青年期の教育について学べて、ちょうど高等部にいるので、考えさせられることが多かったです。会議でしっかり物言えない、言えなかった情けなさの話に泣きそうになり、勇気づけられました。知り合いの方々に「とても良いお話が聞けるから」とすすめられて、初参加しました。現場での具体的な体験談を話してくださり、現場で感じる、似たような悩みなど、自分にあてはまる物が多くありました。三木先生のお話をきいて、心が軽くなったように感じました。いつも楽しくほっこりする、そして勉強になるお話をありがとうございました。若い先生と一緒に聞きに来ました。自分ではうまく教えてあげられないことも、いろいろな思いを伝えられる学習会で、分かってもらえて(組合のことも)よい学習会をありがとうございました。何度きいても、勇気づけられるお話でした。今回は思春期の子どものお話を中心でとても参考になりました。成功体験よりも「どうにかなる」が大事という話もよかったです。みなさん組合加入しましょう!